

昨日は 9.11。安倍内閣の新しい組閣メンバーが発表されました。外務大臣は誰かなと思ったら、河野太郎さんが降りて防衛大臣。実は、彼がずっと外務大臣なら良かったのにと感じていました。

初めに外務大臣になった時は、ちょっとやばいんじゃないかと。お父さんは河野洋平。

「あの親にしてこの子」になるんじゃないか？ 妥協ばかりで、やってもない事を認めたりして、日本の国益を随分害したと思います。

だけど、河野太郎さんはロシアの外相ラブロフを相手に一步も引かなかったでしょ。久々にはっきり言う外務大臣。「竹の子の親勝り」（*子が親より優れている事）という言葉があるけど、いいなと。

今度は防衛大臣。それもいいです。岩屋さんは駄目です。ブレブレやから。

組閣の細かい事については天満橋倶楽部でやらしていただきたいと思います。

河野さんはツイッターをやってます。トランプ大統領もするでしょ。今マスコミは少し歪んだ書き方で報道したりするから「お前らの事は信用できひん。俺は直接読者に訴える」と。

ツイッター、分かりますか？ 短いメールみたいな文章で、誰でも見る事ができる。

河野太郎さんのツイッターに、一般のユーザーが「河野外相に、恋愛相談に乗って欲しいような私の人生でした」と。そしたら「乗るよー。」軽っ!みたいな。

「前からちょっといいなと思っていた友達の彼氏から、好きと言われたんですけど、どうしたらいいでしょうか?」そんなん、外務大臣に言うなや。そしたら彼が「人類の半分は男である。ちょっといいくらいの男は捨てるほどおる。だから、友情を大切にしろよ」と。これが、その日の内に15万件の「いいね!」

これを皮切りに「河野太郎の恋愛相談、聞く価値あるぞ」という事で、「僕の彼女は今、東京都の区議会議員です。行く行くは都議会議員になりたいと言うのですが、家が回らないので、僕は結婚したら家の中に入って欲しいです。どうしたらいいでしょうか?」「君が家に入ったらええやん。」

それを見た彼が「吹っ切れました!」

また「2年前に振られた人の事が忘れられません。どうしたらいいでしょうか?」って外務大臣に。

「もう1回コクするためには、まず真剣に自分を磨こう。」コクるって分かりますか? 告白する事。

これ、外務大臣が言ってるんですよ。「今のままじゃ、コクっても駄目やろ。」

これらに対して「単刀直入!」「真理だ!」「神!」「この恋愛相談、早く書籍化して欲しい。」

こうやって、有権者の若者たちの心をつかむんだな。すごいなと思いました。

この中で彼は「この相談はジャンル限定。恋愛だけ。人生の本質に肉薄するような相談は、ツイッターの短い文章で答える事はできない。」だからこそ、合間の時間に書く事ができると思います。

逆に、人生の本質に肉薄するような、答えようとしても誰もが口ごもってしまうような、分からない問題って、どんなものがあるでしょう? その代表は「なぜ人生に苦難があるのか?」ではないかと思います。もう少し言えば「いい人に悪い事が起こるのはなぜか?」「なぜ神を信じているのに、信じていない人より不幸になるケースがあるのか?」「どうして悪を行いながら、のうのうと幸せそうに生きている人がいるのに、善人が踏みつけられて不幸な目に遭うのか?」

神が全ての人間を支配しているのなら、なぜこれらの事があるのか、考えた事がありますか？

今日は、**黙示録 7つの教会時代区分**の中の2番目と3番目です。

2番目はスミルナの教会。純粋に神とイエス・キリストを信じているけど、どの教会よりもひどい目に遭っている教会。不信仰じゃない。どの教会よりも純粋に神を崇めているのに、どの教会よりもこっぴどい目に遭っていて、これからもっとひどい目に遭う事を、前もって助言されているところです。

このように、いい人に悪い事が起こり、しかもそれが続けざまに起こっている状態の人に、どんな励ましの言葉・慰めの言葉を語る事ができるだろうか。興味ありませんか？

私も聞きたい。私もそれを何度も考えましたから。

という事で、今日はスミルナとペルガモンの2つの教会です。

ざっくりと言いながら、緻密になっているところもあって。今日は2つもやるから、何が何でもざっくり行きますので、詳しい質問は後でなさってください。

前は2か月ほど前なので、皆さん、きっと忘れてると思います。だって、私が忘れてるんやから。

何やったかなと思って。それで思い出すために、改めて**黙示録 1章**を開けてください。

黙示録はどんな本なのか？

黙示録 1:1 イエス・キリストの黙示。

神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。

黙示録は、**すぐに起こるべき事**だけど、今現在はまだ起こっていない。しかし、必ず起こるべき事について、すなわち未来の事についての預言書です。

すぐにとは、今すぐにというよりも、成就し始めたら“あつという間に”起こり出すという意味。

必ず起こらなければならない・辿り着かなければならない歴史のゴールがあって、それを「**新天新地**」と言います。今のこの世界が全く新しくされ、究極の至福の世界に造り変えられてしまう。それがゴール。

そこに行くまでのプロセスを詳しく語っているのが**黙示録**。そのプロセスを示すために、イエス・キリストを通してお与えになりました。神イエス・キリストが差出人です。宛先は**7つの教会**。そのリストが、

黙示録 1:11 七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアに送りなさい。

この**7つの教会**は、黙示録が書かれたAD96年の段階で実在していました。

黙示録 1:4 アジアにある七つの教会

この**アジア**は私たちが住んでいる極東アジアではなく、ローマ帝国アジア州を指していて、現在のトルコ・アナトリア半島辺りです。

そこにたくさんの教会があったのですが、神様はある意図をもって、この7つをピックアップしました。

7つの教会はアジア州の中で、互いにそんなに離れていない同時代の教会です。

しかし、その実情・実態を見ると、7種類がバラエティーに富んでるといえるか、それぞれが各々の問題を抱えていました。その問題の種類が全然違うのです。問題のない教会はどこにもない。

問題を抱えている教会への励ましの言葉が初めに出て来ますが、これは、当時存在していた教会への励

ましであると同時に、世界中の教会は、この**7つの教会**のタイプのどれかに似通っています。
なので「2000年前の教会の事、私には関係ない」とは言えない。今の私たちへの言葉でもあるんです。

同時に、預言書である**ヨハネの黙示録**は、**患難時代**について詳しく書いてあります。
患難時代に入る前、**教会時代の7つの段階**を経て**患難時代**に行きます。
その7つの段階の順番が、7つの教会の実情とよく似ているんです。
ピッタリ当てはまるのではないけど、顕著な特徴は見事に当てはまる。
既に**エペソ**が終わったので、今日は**スミルナ**と**ペルガモン**を一緒に見たいと思います。

黙示録 2:8 また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。「初めてあり終わりである方、死んでよみがえられた方が、こう言われる一。

スミルナは地名で「没薬（もつやく）」という意味があります。没薬はムルという木から取る防腐剤で、いい匂いがする。没薬はギリシア語で「ミルラ」。ミルラからミイラという言葉ができました。
ミイラは死体を保存するために、脳みそや内臓をごっそり取って乾燥させた後、形が崩れて行かないように中に詰物をしますが、綿ではなくミルラを入れます。没薬を入れる事によって防腐剤、且つ、死体特有の臭いからも解放されるのです。

没薬は死者の埋葬のために使う物なので、死とか苦難を象徴する言葉と言っていいと思います。
イエス・キリストの生涯の最初に、東方の博士が没薬を持って来て、最後は没薬で葬られる。復活の前に。

没薬は苦難と考えたらいいでしょう。**苦難**という名前から連想されるような事が、現実の世界で起こっている教会。それが**スミルナ教会**です。何が起こっていたのか？

黙示録 2:9 わたし（キリスト）は、あなたの苦難と貧しさを知っている。

貧しさには「絶望的な貧しさ」を表す言葉が使われています。
ぎりぎり極限の極貧状態に置かれている飢えた教会。貧しくて、今にも倒れそうな教会。
スミルナ教会は2つのものから迫害・攻撃を受けていました。

1つ目の迫害者は、一般のローマ人・ローマ市民権を持っている人たち。
スミルナの町はローマ皇帝に褒めてもらうために、自発的にローマ皇帝を神と崇める神殿を建てて奉納していました。市民たちが自らの意思でお金を出し合って、それを造ったのです。

ローマ市民権を持っている者たちは、この神殿に詣でて「カイザル皇帝は主です。神です!」と告白する事になっていました。告白したら、引き換えに証明書が貰えます。それを持っている人たちだけが同業組合に入る事ができ、商売ができました。このライセンスを持ってない人は、就職もできなければ仕事もできない。商いができない。だから、町の中でまっとうな生活をしたい人は皆、当たり前にお辞儀する。

だけど「絶対に頭下げない。皇帝を神として拝まない」と言われていた人たちがいた。それがクリスチャンです。彼らは「イエスだけが主なる神。皇帝は人間として尊敬するが、神として拝む事はできない」と言って礼拝を拒否する。そのため、彼らは同業組合に入れません。
すなわち食えない。生活できない。ギリギリのところまで追い詰められて行きます。

2つ目の迫害者・弾圧者はユダヤ人。

黙示録 2:9 ユダヤ人だと自称しているが実はそうでない者たち、サタンの会衆である者たちから、ののしられていることも、わたしは知っている。

この当時、ユダヤ人は2種類ありました。

①イエスをメシアと信じるユダヤ人。当然、皇帝礼拝しないので同業組合に入れない。

②イエスをメシアとしては拒否するユダヤ人。皇帝礼拝しないのに生活できた。なぜか？

AD70年にエルサレム神殿が崩壊しますが、それまでは神殿税を払っていました。

この時は神殿崩壊して25-26年経っていて、神殿税のお金をローマ皇帝に納めるなら、皇帝を礼拝しなくてもオクケーという特権を貰っていた。だから、彼らはローマ皇帝礼拝しないけど迫害されません。そして、イエスを信じる主にユダヤ人に向かって「お前らはユダヤ教から飛び出た新しいキリスト教という、言わばカルト宗教・異端で、ユダヤ教の一派ではないから、この特権を貰う事はできない!」

という事で、スミルナの一般のローマ人からも迫害され、そしてユダヤ人たちからも迫害されている。両方から迫害されて、町のどこにも居場所がない、というのがスミルナ教会のクリスチャンたち。

ここで、ちょっと寄り道させてくださいね。

黙示録 2:9 ユダヤ人だと自称しているが実はそうでない者たち、サタンの会衆である者たち

時々ネットで、この箇所を使って「今のイスラエルで、ヨーロッパから帰って来たユダヤ人、すなわちアシュケナジーと言われるユダヤ人の先祖はカザール人だ。アブラハム・イサク・ヤコブの子孫ではない。中央アジアに7世紀から13世紀まで存在していたカザール人の国が滅ぼされ、その末裔が東ヨーロッパに移動して、それがアシュケナジー・ユダヤ人になった。**ユダヤ人だと自称しているが実はそうでない。**アシュケナジーはユダヤ人と自称しているが、実は中央アジア人である。聖書にそう書いてある。」

そういう読み方をする方がいらっしゃるんですけど、そんな読み方している限り、聖書は100年経っても分かりません。それは聖書の正しい解釈の仕方じゃないんです。

どのように解釈するのか？当時のスミルナの人々に向かって、この預言が語られているという事。つまり、スミルナの人々が「**ユダヤ人だと自称しているが実はそうでない者たち**」と聞いた時に、彼らが理解している意味で理解しないと、どんな風にも読み込んで、聖書が言っていない事までも解釈する事ができるようになるんですよ。それは、聖書を読んだ事にならない!

「この時の聞き手が聞いて、理解している意味で理解する」という事が最低限必要なのです。

カザールは7世紀から13世紀で、これが書かれたのはAD96年ですから、この時カザールは何もない。

ここで言っている「**ユダヤ人だと自称しているが実はそうでない者たち**」とはどういう事か？

聖書では名前は本質を表します。非常に悪い事をした犯人の名前がすごい立派という事、ありますね。僕の名前、高原剛一郎。強くてナンバーワンで男の中の男。もう、言うてて恥ずかしくて言えない。細いのに太(ふとし)君とか。でも基本的には、聖書では名前は本質を表します。

ユダヤ人の「ユダヤ」はどう意味でしょう？ヘブライ語で「イエフダ」。「賛美・神をほめたたえる」という意味があります。だから、ユダヤ人と名乗るならば、ユダヤ人のために遣わした神の救い主を受け入れるべきなのに拒否している。

名前はユダヤ人で「神をほめたたえる」という意味だけど、彼らは名前の実質の意味を自ら否定している。

この状態の人の事をユダヤ人だと自称しているが実はそうでない者たち。

イエスを信じるユダヤ人は、ユダヤ人を自称し、なお且つ、実質がユダヤ人である人たち。ユダヤ人を名乗っているけど、イエスをメシアとして拒否するユダヤ人は、**サタンの会衆である者たち**と書いてあるように「神に敵対する事なのだ」と言っているのです。

スミルナ教会は、ローマの一般人からもユダヤ人からも居場所を奪われて弾圧され、それで極度に貧しい生活を強いられ、追い詰められて、これから、より本格的な迫害が始まろうとしていた。苦難の中にあるスミルナのクリスチャンに向かって、キリストは3つの励ましの言葉を語っています。

励ましの1番目。黙示録 2:9 わたしは、あなたの苦難と貧しさを知っている。

知っているというのは、ニュースとして・知識として知っているという意味じゃない。「正しく生きているにも拘らず、不可解な不運に見舞われている、あなたの心の中の葛藤や痛みや嘆きを、わたしは自分の事としてよく分かっている。知識で知っているのではなく、あなたのそばにいて、自分のものとして、今あなたと一緒に痛み、今味わっている。あなたが泣く時、わたしは泣いている。あなたが苦しい時、わたしは苦しんでいるんだ。そばにいるんだ。」これが慰めの第1です。

この前ラジオでも紹介したのですが「何もしない僕を貸します」の、通称レンタルさんという人が本を書いています。彼は国分寺に住んでいて、彼のメールアドレスに申し込んだら、電車賃と、もし飲み食いするのならその飲食代を払ってくれたら、何もしない僕を貸しますと。どういう事かというと、そばにいても、簡単な受け答え以外何もしません。「来てください」と言ったら来るんです。で、何もしない。そんな人、申し込みますか？ 毎日 20~30 件の申し込みがあるんですよ。どんな人が呼ぶねん。

あるシングルマザー。洗濯物を干してたら、自分の下着が下の階に落ちた。真下の階に住んでいる人は怖い人。筋者（すじもん/ヤクザ）。ヤバイ人。いかつい人。「下着返してください」と行く時、女1人で行くよりも、全然関係ない人やけど、そばについて来てもらうだけで、「ひとりもんちゃうねんな。知り合いおんねんな。」実際取りに行ったら、彼はほんまに何もしない。ぼーっと立ってるだけ。「感謝されました。」

ある人は「裁判に訴えられてるんですが、傍聴席に座ってくれませんか？ 誰も味方がいないんです。弁護して欲しいんじゃないくて、ただ僕の側に座って、じっとしててください。」裁判、訴えられたらしんどいですよ。皆から憎しみで見られている時に、見ず知らずの人ではあるけれど、友達みたいに座っているだけで「よし、闘うぞ」という気持ちになる。

存在が持っている力、あるんじゃないですか？ 特に気の利いた事を何か言うんじゃないんです。いてるという事実。私は1人じゃない。孤立してない。私の側に立つ人がいる。その人がほんまに何もせえへん人であったとしても、存在が力を与えてくれる。

だとすれば、全知全能の創造主なる神がそばにいて、苦難の只中で、私と一緒に苦しんだり・嘆いたり・見守ったりしてくださっているのは、本当に力になるのではないのでしょうか。スミルナのクリスチャンに向かって、「わたしは知っている。そばにいてるから。」これが慰めなんです。

励ましの2番目。真の主権者はキリストご自身であるという事。黙示録 2:10 あなたが受けようとしている痛みを、何も恐れることはない。見よ。悪魔は試すために、

あなたがたのうちのだれかを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあう。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与える。

ローマとユダヤの両方から迫害を受けているスミルナ教会に、「ローマとユダヤの背後にあって、あなた方を攻撃している黒幕集団が誰なのか」をここで明らかにしています。

見よ。悪魔は試すために、あなたがたのうちのだれかを牢に投げ込もうとしている。

悪魔があなた方を試そうとしている。つまり、今あなた方は苦難を受けて、これからもっと本格的な苦難を受けようとしているけど、それをやっているのは悪魔であって、わたしの罰ではない。

わたしはバチを当てて、あなた方を苦しめているんじゃない。

嫌な事やガッカリする事がずっと続くと、神が私を怒っているんじゃないか。神は私を憎んでいるのではないか。すぐに結び付けて解釈しやすいと思います。神と人生の出来事はイコールではありません。人生の出来事の中には、嫌な事・辛い事・苦しい事・しんどい事いっぱいある。それをずっと受けてると、神は辛くて・苦しくて・しんどくて・どうしようもない方だと思いやすいけど、人生の出来事と神はイコールではない。

ここでの苦難の原因は悪魔。

悪魔は試すために、あなたがたのうちのだれかを牢に投げ込もうとしている。

わたしの怒りの対象として、あなた方を覚えているのではない。悪魔があなた方を恐れて憎んでいるのだ。

あなたがたは十日の間、苦難にあう。

十日の意味は文字通り10日。聖書で日・年・月・数字が出る場合、額面通りに受け止めるべきです。144000人と書いてあったら144000人の人間。42か月と書いてあったら42か月。1260日と書いてあったら1260日。スミルナ教会のある時期・あるタイミングで10日間、ものすごい迫害が来るという事。

しかし、十日の間、苦難にあうという事は「10日できっちり終わる」という意味でもあるんです。

11日目は来ない。永遠に続く苦難はない！全て神が制限を設けておられる。

不幸に見える出来事も含めて、全ては主権者の神が握っている。神の許しなしには、人が倒れるような事は起こらない。神は耐える事ができないような試練には遭わせない。

耐える事ができるように、試練と共に脱出の道を備えてくださっている。

「見かけ上は悪魔がやりたい放題しているように見えるけど、わたしの許可なしに、無制限にあなた方を苦しめる事は絶対にできない！わたしがあなた方をしっかり握っている。様々な問題は、わたしが許した範囲内でしか起こらない。わたしはあなた方全てが倒れないように支え、祈っている」という事。出来事の舞台裏、「本当の主権者は神である」と教える事が慰めの2番目だと思います。

慰めの3番目。黙示録2:10 死に至るまで忠実でありなさい。

直訳は「死に至るまで忠実になりなさい。」

「たとい死ななければならぬとしても、神に忠実でありなさい。」

これが教会に対する慰めの言葉って、これ、慰められますか？

教会と言っても、色んな教会ありますよ。色んな教会がありますわ。「教会に来たらお金儲かる！」とか「神よ、来い！」命令するんですって。ちょっと、ここ読んでみ？死に至るまで忠実でありなさい。

「1万円に忠実」って書いてない。「命と交換しても、神から離れる事がないようにしなさい。」
ご利益宗教の対極ですよ。

キリストは命に代えてでも、**忠実**に仕えるに値する方。それくらい価値ある方だと分かるけど、できる？
日本が中国に占領されて、習近平の権力が東住吉区にまで及ぶようになったら、いらっしやいますか？
バツと秘密警察が入って来たら「私、無理やり連れて来られたんです！ 高原が悪いんです！」みたいな。
簡単に売り飛ばして。

死に至るまで忠実でありなさい。 **忠実**はギリシア語で「ピストス」。「忠実」と同時に「信じる・信仰」という意味があります。なので、このように訳し直す事ができます。
「死のギリギリまでわたしを信頼していなさい。死に至るまでわたしに抛り頼んでいなさい。ギリギリまで信仰を働かせて、わたしを仰いでいなさい。わたしを信じなさい。」

わたしの何を信じるんですか？ イエスの何を信じたらいいのでしょうか？ イエスの**忠実**さを信じるんです。
「イエスをご自分に抛り頼む者を絶対に捨てない。その忠実さを信頼していなさい。キリストは私の信仰の不足を補って与えてくださるお方だという事を信頼していなさい。」

扇風機の羽、何で回ってますか？ 電気でしょ。まさか指でグルグルする人いないでしょ。電気止められた人か知らんけど。普通はモーターの力で回りますね。では、風車は何で回っている？ 風。風が回します。

クリスチャンの信仰は、神が与える信仰で回転するんです。
私を見たらチャランポランやし、聖書分からへん所いっぱいあるし、スカタンするし、クリスチャンになってからもたくさん罪を犯したし…。
でも、そんなに弱い者だからこそ、キリストは私を「見るに忍びない」と思っておられるに違いない。

この方はご自分に身を下げの者を決してお見捨てにならない。この方の**忠実**さを**死に至るまで**信頼していなさい。そうしたらキリストが、必要な信仰・必要な判断・必要な勇気を与えてくださる。

1945年にルーマニアにソ連軍が入って共産革命、共産主義になりました。ルーマニアはヨーロッパの中で非常に不思議な国です。ルーマニアはローマニアから来ていて、ルーマニア民族だけラテン系。東ヨーロッパの国なのに、ギリシャ正教の国ではない。

そこにリチャード・ウォンブラントという、有名なユダヤ人クリスチャンのリーダーがいました。
ルーマニアが共産化した時、国中の教会の指導者が集められ、「これからはルーマニア共産党が指導する宗教部の言う事を聞きなさい！ 全員、宗教部の中に入りなさい！」彼だけが「ノー！ 嫌だ！」

その時から地下教会で非公認で内緒に集まり、聖書の言葉を語って伝道して、非常に重く用いられるのですが、3年後に秘密警察に捕まりました。自分と妻二人共逮捕連行され、奥さんは3年間の強制労働。彼は最初の3年間は独房で、拷問を加えるために来る係官以外の人とは会った事がない。
そうして8年間、思想改造刑務所に入れられました。

両親がいなくなった時、1人息子のミハイ君は9歳。突然両親がいなくなった。
共産主義だから衣食住は国家が面倒みるというけど、9歳のミハイ君が入った所は、幼い子供の心と頭を共産主義に洗脳するための施設でした。

朝から晩まで「神は無い。神は無い。」「聖書は間違い。聖書は間違い。」「キリストは死んだ。キリストは死んだ。キリストは間違い。」ずっと言われた。

初め、「そんな所、行ったらあかん」と、同じ教会の2人の姉妹の内の1人が家に匿ったけど、逮捕連行・拷問され、一生片足引きずって歩かないとだめ。もう1人の女性は懲役18年。

逮捕された者の家族を匿い養うというのは国家反逆。それで恐れをなして、誰も彼の面倒見ない。

ミハイ君は施設にずっといる事によって信仰を失いました。幼い時から家の中で聖書を聞いていたけど、あまりにも洗脳がきつくて、信仰が分からなくなってしまったのです。「こいつは信仰を捨てた」と見届けられたのが11歳。秘密警察は11歳のミハイ君を連れて、刑務所のお母さんに面会させました。ミハイ君はお母さんが分からない。ガリガリで、ボロボロで。あの綺麗なお母さん、どこ行った？

秘密警察としては、信仰を捨てた息子を母親に見せて、母親の心をパキッと折る。

息子には、母親がキリストを信じたがために、こんなにも惨めになったのを見せて、「神を信じたら怖い！距離を置かなければ！」と思わせる。

ところが2人がパッと会った時、最初にお母さんがひと言「ミハイ！イエスを信じなさい！」

それを聞いた瞬間、看守がカンカンに怒って「お前、まだ分かんのか！」とズルズル引きずって行って、面会5秒。引きずられていくのを11歳のミハイ君が泣きながら見送るのですが、この瞬間に信じたそうです。「この瞬間が、私が信仰を得た瞬間だった」と、ご本人が言っています。

「この状況でも慕わずにはおれないキリストって、どんな方だろう？ここまでなって、それでもお母さんはイエス・キリストを慕っている。私はイエス・キリストが分からなくなったけど、このお母さんがこんなにも信頼しているキリストは信用に値する。私にとって、お母さんの信仰以外に、聖書は正しいという根拠がゼロであったとしても、お母さんの信仰だけで十分だ。」

まさかそんな顛末になるとは思っていない。でも、何が用いられて、どうなるのか分かりません。

神様は、自分の忠実さで「こんなにやりました！こんなに従いました！」ではなく、弱いので**死に至るまで**、最後の息を引き取るまで「あなたを信頼する以外、私には何もできません」という信頼の態度で出る人を支えるんです。

黙示録 2:10 あなたがたは十日の間、苦難にあう。死に至るまで忠実でありなさい。（これから殉教者が出る。）**そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与える。**

いのちの冠は殉教者に与えられる、天国に行った時の報いです。

黙示録 2:11 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。

勝利を得る者（キリストに対する信仰を持つ者）は、決して**第二の死によって書を受けることはない。**

直接的には**スミルナ教会**に語っている事ですが、このメッセージはスミルナ教会だけでなく、**諸教会に告げることだ**。諸教会とは全部の教会。つまり、どの時代にも迫害や苦難の中に置かれている教会がある。その教会のためにも語っているという事です。

第二の死とは、死後、神から永久に切り離されて行く世界の事。死とは分離なんですよ。

クリスチャンは2回生まれて1回死にます。1回目、生物として、おぎゃーと産まれますね。

そして人生のある段階で、イエス・キリストを救い主として信じた瞬間、神様の子供として生まれました。だから、クリスチャンは自分の肉体の誕生日と、イエス・キリストを信じた心の霊の誕生日があります。2回生まれている人は1回しか死にません。第二の死を経験しない。しかし1回しか生まれてない、つまり肉体的には産まれたけど、キリストを信じない人は2度死にます。

勝利を得る者（キリストに対する信仰を持つ者）は、決して第二の死によって害を受けることはない。これは黙示録の最後で詳しくお話します。

さて、時間配分を大きく間違っただけですね。これから、ほんとにじっくり行きます。

黙示録 2:12 ペルガモンにある教会の御使いに書き送れ。

ペルは「混乱する」。ガモンはガモスという言葉から出た「結婚」。ペルガモンは「混乱した結婚」。本来、結び合うべきでないもの同士が結び合う結婚。本来、相反する価値観のもの同士が一心同体となってしまう結婚。伴侶としてはならないものを、伴侶として結び合わせてしまうような間違っただけの結婚。

この教会に対して、キリストはまず称賛から語っています。

黙示録 2:13 わたしは、あなたが住んでいるところを知っている。そこにはサタンの王座がある。

ペルガモンにはサタンの王座がある。サタンはヘブライ語で「敵対者」という意味です。神に・神の計画の実現に・神に従う人・神を信じる人に敵対する。敵対者。

サタンの王座がある。世の中にはサタンの場所とか、サタンの手下がいる場所とか、悪霊の巣窟みたいな所とか、そういうのはありますが、ここにはサタンそのものの王座がある。この時代、サタンはペルガモンに住んでいました。

ペルガモンとは一体何なのか？ この町の中に、高さ 300m くらいで 3 段階構造の、人工で作ったピラミッドみたいな形の丘があります。その頂点の台地の部分に、ゼウス神殿・アテネ神殿・ギリシャ神殿と、歴代ローマ皇帝を神として祀った神殿がありました。アレタスという歴史家によると、全アジアの偶像を合計した数より、ペルガモンの中にある偶像の数の方が多い。もう偶像だらけの町。

当時の皇帝礼拝の中心地・人が拝む中心地の背後にサタンがいたという事です。

サタンは悪魔ですが、被造物が後に反逆してサタンになった。

基本的には被造物なので、世界中、同時に存在する事はできません。

神は全世界・全宇宙・どの場所・どこに於いても存在する事ができます。

サタンは、この時ペルガモンにいたら、エルサレムにはいない。東住吉区にいない。

この時、ペルガモンにいました。その時その時に、行く所が違うと思います。

偶像礼拝の中心地、サタンの王座があるそこに、ペルガモン教会があったんですね。

こんな所で、どうやってキリストを信じる人が起こされたんだろうか？ いたんです。しかも、

黙示録 2:13 しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの確かな証人アンティパスが、サタンが住むあなたがたのところで殺されたときでさえ、わたしに対する信仰を捨てなかった。

アンティパスというクリスチャンが殉教したんですね。ちょっと正確に読みたいと思います。
サタンが住むあなたがたのところで殺されたという意味は「あなた方が見ている目の前で殺された。」

日本の死刑は密室で行われますが、アンティパスは同じペルガモン教会のメンバーたちが見ている目の前で殺された。見たくないと思っても、見せしめで強制されて「見ろ!」。
それを見てトラウマになって、生涯脳裏に焼き付いて、ザックリ行くような、そんなひどい殺され方をしたにも拘わらず、あなた方はわたしに対する信仰を捨てなかった。ほめられている。

信仰が盛んな所で、大多数が信仰者という所で信じたというのではなく、サタンの王座がある所で、恐らく少数派で、しかも大変な目に遭っているにも拘らず「わたしに対する信仰を捨てなかったね。」その事を称賛しています。

しかし問題があったんです。サタンは2つの方法でペルガモン教会を攻撃しました。
1つは今言った迫害です。主要メンバーであったかもしれないアンティパスが殺されてしまった。

もう1つは内部に間違った教えを持ち込む事で、ペルガモン教会を内側から変質させようという企て。
内部に持ち込まれた2つの間違った考えは「バラムの教え」と「ニコライ派の教え」。
この間違った2つの教えが教会の中に入っている。

黙示録 2:14 けれども、あなたには少しばかり責めるべきことがある。
あなたのところ、バラムの教えを頑なに守る者たちがいる。
バラムはバラクに教えて、偶像に献げたいけにえをイスラエルの子らが食べ、淫らなことを行うように、
彼らの前につまずきを置かせた。

少しばかりやから、大した事ないんか? いや、そうじゃない。なぜ少しばかりと言っているのか?
ペルガモン教会全部がバラムの教えに染まっているのではなく、この教会の中に、バラムの教えを頑なに守る者たちがいる。間違った教えを持ち込む人たちをそのままにしている事を問題視しているのです。

バラムの教えは旧約聖書に出て来るのですが、簡単に言います。
昔、モーセに連れられたイスラエルが、世界ナンバーワンの超大国だったエジプトを脱出し、荒野を越えて、先祖のアブラハム・イサク・ヤコブたちがいた約束の地に進んでいきます。
超大国エジプトの力でもイスラエルをつなぎ留める事ができず、あのエジプトが10回も奇跡で打ちのめされ、最終的には最高権力者のファラオが溺死しました。

最強の国を振り切って、何の武器も持ってないイスラエルの連中がザッザッザッと約束の地に近づいて来た時、近くにモアブという場所があって、その王様がバラクです。バラクは「俺もやられてしまうのでは!」と震え上がって、イスラエルをやっつけてもらうために偽預言者のバラムを雇います。
ややこしいね。バラクが王様で、バラムが預言者。

バラムの手段は、最終的にはモアブの女性たちを使って、イスラエルの男たちを性的に誘惑した。
若い男性は性的な誘惑に弱いんじゃないですか? 長旅で疲れている時に、非常に扇情的な格好をしたモアブの若い女性たちがやって来て虜にした。そして、彼女たちが信じている偶像をなし崩しで受け入れていき、心がイスラエルの神から離れて行く。
彼らは交わってはならないものと交わり、結合してはならないにも拘らず結合し、結び合ってはならな

い関係を結んでしまいました。まさに、**ペルガモン**ですよ。
それによって、イスラエルが内部からガタガタになったと言うのです。

教会の中にも、そういう間違っただけが入る事があります。
随分前、あるホテルで講演した時、教会に行っている占い師がいたんです。何で、教会で占いでいるかな。
この占い師が、前世が読めるとか言うんですよ。で、自分はクリスチャンで。「アンタ、絶対クリスチャンちゃうわ」と言うたらなあかん。機会を窺っていたら「高原さんの前世が分かる。」「言うてみ。」
そんな偉そうな言い方じゃないですよ。「言うてごらんなさいよ。」それもちゃうと思うけど。
そしたら、何て言ったと思います？ 私の前世、チェ・ゲバラって。チェ・ゲバラ、分かりますか？
怪獣の名前ちゃいますよ。キューバ革命をカストロと一緒にやったアルゼンチンの医者。よく T シャツにゲバラの顔がある。「チェ」は「どうも」の意味。誰に対しても「やあ!」と声かけるからチェ・ゲバラ。
あだ名です。で、前世はチェ・ゲバラ。

「ニセモンやっ!」思い切り言うてやりました。僕は昔、彼に憧れていたから詳しくはなかったんです。
チェ・ゲバラが死んだのは 1967 年。その時、私生きてるんです。10 年前。私、年齢よりかなり若く見えたのね。今は年相応の顔じゃない?
「そんな訳ないやろ。俺、生きてたで。かぶってるやんけ! こいつ、ニセモンや!」。そしたら泣き出して。
それで、女の人を泣かしたって白い目で。そんな関係ない。「あかん!」言うて。
こんなの、のさばらしてたらあきませんよ。これは極端な例です。

もっとひどい例がある。80 数年前の昭和 7 年頃。岐阜県大垣の小学校が、戦前の事ですから、授業中に近くの神社参拝をする事になりました。
少国民（*天皇に仕える小さな国民）養成のために精神状態から、という事で、小学校・国民学校の児童は皆、神社に行って参拝する。これ、授業の中に入っているんです。

ところが、4 人だけ「行きません」と言う子が出て来た。「お父さんかお母さん、病気か?」
「違います。偶像礼拝だから」。この子たち 4 人共、日曜学校に行っていたんです。
実は身寄りがなく、宣教師の養子みたいに、幼い時から聖書の基礎をしっかりと教えられていました。
それで、鳥居まで連れて行かれるけど入らない。入っても拝まない。一切、断固、拒否。
家に帰ってから宣教師のママに「学校で無理やり拝ませそうになったけど、僕たちは拝みませんでした」と言ったら、「そう、しっかり立ったのね。でも、これって、ちょっと問題よね。」

宣教師が校長先生の所に行って「お話があります。」
校長先生が「私の方でもお話があります。あなた達は、一体どういう教育をしてるんですか? 日本少国民を養成するために神社礼拝しているのに、それを禁じるとはどういう事ですか?」
「私たちは日本人の先祖や文化を尊敬していますが、神として礼拝する事はできません。」
「そんな非国民を養成する機関が日曜学校ですか。」

そこで終わったら良かったのですが、校長がそれを新聞社に喋ったんです。それで、新聞でダーッと「教会の中で、こんな恐ろしい洗脳教育を子供たちにやっているんだ!」
それを見た宣教師が「私たちにはお金がないから、唯一の真の神がおられる事を新聞広告に出せないけど、記事になって伝道の一貫!」とか言うて。この人、ものすごい肝っ玉。
「唯一の神がいる事が、一面記事で日本人に明らかにされている!」

だけど、それからが大変ですよ。PTAが怒り出し、四王天（しのうてん）という陸軍中将までが、軍人を小学校に派遣して、この教会を潰すために動こうかと。

その翌年、修学旅行で伊勢神宮参拝が始まりました。伊勢神宮に行く事は、何も悪い事じゃないですよ。「拝め！」伊勢神宮は普通の神社じゃない。日本で一番古い神社。天孫降臨（てんそんこうりん）の神社。「拝め！」拝まない。断固として拝まない。
4人がどうなったかという、小学生なのに退学なんです。教育を受けられなかったんですよ。

そして、一番の問題はここからです。この問題、特に伊勢神宮の問題が新聞沙汰になり、朝日・毎日・読売全部が「こんな非国民をつくっている!」。それで、色々インタビューされたり、問い詰められた時、当時の日本の大きな教会の牧師たち・指導者たちは何と言ったか？

「神社参拝は宗教じゃないから、クリスチャンでも拝んだらいい。はっきり言って、私らやってますよ。あんな原理主義者たちは、信仰と言って、唯一の神以外のものを拝まない。それによって、私たちは白い目で見られて、クリスチャンとして迷惑してます。」

クリスチャンが、教会が、迫害したんですよ。戦前にあったんです。美濃ミッション事件。
この時、教会に入っている思想って何ですか？ 聖書ではない。聖書も使っているかも分からないけど、聖書以外の日本の皇国史観が入って来てブレンドされている。そうなったらもう、教会は踏ん張れない。はっきり言って、救われてないクリスチャンがクリスチャンの指導者になっている。
恐らくこの時も一緒です。ペルガモンの中に、**バラムの教えを頑なに守る者たちがいる。**

黙示録 2:15 同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを頑なに守っている者たちがいる。

ニコライ派とは何かよく分からないけど、恐らくこうではないかと一般的に言われている事があります。**ニコライ**は「ニコラオス」。ニコは「支配」。ラオスは「民・国民・人々」。**ニコライ**は「人々を支配する」。

ニコライ派の教えでは、教会の中に上流階級と下流階級を作ります。全てのクリスチャンが兄弟姉妹として神の前に等しいのではない。

“神に近い人と平信徒”・“より上位の聖職者/神聖な聖人とそうでない人”に分ける。
そうして、教会の中にヒエラルキーというか階層を作り、その地区で教会がいくつか集まった上に、ある人物がまた立って、最終的には、全教会の上に1人の人物が支配者として立ちます。それが法王です。1人の人物が教会よりも上に立つ。これで結局、妥協する教会になって行くのです。

黙示録 2:16 だから、悔い改めなさい。（そういう人たちを出しなさい。）

そうしないなら、わたしはすぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦う。（何か起こる。この教会が裁かれる。）

黙示録 2:17 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。
勝利を得る者には、わたしは隠されているマナを与える。

イエス・キリストはある時言われました。「わたしは天から下ったマナです。」
隠されているマナは分かりませんが、私の個人的な考えで、マナの中で隠れているマナがあるんです。それは、契約の箱の中に**隠されているマナ**。

最も神聖な至聖所に置かれる契約の箱の中に壺があって、その中にマナがある。それは隠されているので、誰も見る事ができません。

一番神聖な所にある、御心の中の御心を与える。神と親しい交わりの時を与える。

黙示録 2:17 また、白い石を与える。

その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が記されている。

聖書を見ると、信仰によって大きな決断をした後で、神様が**新しい名前**を与えている人たちがいます。アブラムは神に従った結果アブラハムに。ヤコブは神に体ごとぶつかって新境地に立った時イスラエルに。バルヨナ・シモンと言われた人物はイエス様を救い主とし、弟子となって本格的に従って行く時にペテロという新しい名前を頂きました。

信仰的に勝利を得るといふか、大きく前進した時、**新しい名前**を付けられる事があるんです。恐らく、それを意味しているのかなと思いました。

さて、個別のこの時代にあった事を言っているのですが、これを時代区分で見たいと思います。前回の**エペソ教会**は 30-100 年。30 年に教会が誕生しました。これ以前に教会は存在しません。聖霊が降って来た時に教会が誕生して、100 年というのは最後の使徒ヨハネが亡くなってしばらく。これは**初代教会時代。使徒たちの時代。**

次の**スミルナ教会**は 100-312 年。これは**迫害下の教会時代。**

312 年までは大変な迫害があったけど、313 年にローマ皇帝がキリスト教を公認して迫害が終わります。公認したのが**ペルガモン教会**。313-606 年。公認 (313 年)は「信じてもいいです。迫害はありません。」

392 年にキリスト教が国教化されました。国教は「ローマ人は全員、自動的にローマの国の宗教に入る。個人の信仰は関係ない。ローマで生まれた人は皆キリスト教徒。」

ペルガモンは**妥協した教会の時代**。先程「**混乱した結婚**」と言ったように、ある意味、**国家と結婚した教会**と言えます。

①**エペソ** (30-100) **初代教会時代** ②**スミルナ** (100-312) **迫害下の教会時代**

③**ペルガモン** (313-606) **国家と結婚した教会時代**

教会の歴史を調べると、暗黒の歴史がたくさん出て来ます。「こんな残酷な事・不道德な事・無茶苦茶な事、ようやったな。」それで多くの方、聖書そのものをあまり読んだ訳ではないけど、世界史には無類の知識を持っている方は「だからキリスト教はあかんのや! こんなもん、恐るべき悪魔宗教や!」と言われるんです。私もほんま、悪のみやなと思う時あるわ。

何でそうなったかを、①**エペソ**~③**ペルガモン**の流れから考えていただきたいのです。

①**初代教会時代**で、**初めの愛から落ちてしまう**んです。初代教会時代は異端が撃退されました。**ニコライ派の教え**を見破って、我慢できずに撃退した。

②しかし、使徒たちがいなくなった後、大変な迫害が始まりました。**迫害下**ではある意味、命の危険を覚悟しない限り、イエス・キリストを信じる事ができません。

「一応、信じときましょか」という気楽な信じ方ではない。キリストを信じたら、それと引き換えに人生に何が降りかかって来るか？ あまりいい事はない。もしかしたら人生、棒に振るかも。殉教するかも。それでも信じるという事は、聖書の福音に本物を見て取って「この方以外に救い主はない！ 死の解決はない！ 罪の解決はない！」と信じてクリスチャンになっている。

だから、**スミルナ教会**は、非常に純化された本物のクリスチャンたちで構成されていると言えるのです。

③ところが312年に迫害がなくなり、392年に国教になったという事は、ローマ皇帝自身がキリスト教徒になるという事。帝国のトップが「クリスチャンで一す。」

そしたら、ローマ皇帝よりも位が低い人は「俺、クリスチャンとかキリスト、嫌いなんですけど…」とは絶対言いません。一番権力ある人がクリスチャンだ（本当に信じているかは別ですよ）と言ったら、誰が逆らえますか？

それで、個人的にイエスを信じている/信じていないとは無関係に、皆「私もクリスチャン」で、教会の中に、本当はクリスチャンでない人が形だけでドンドン入って来るんです。

スミルナの時代は、教会構成メンバーの殆どが本物のクリスチャンでした。

だけど、国教化されたら、本物のクリスチャン以外の方が教会内で多数派になります。

その人たちが持っている価値観は聖書じゃない。別の宗教・別のカルト・別の考え・別の哲学、そういったものを捨てないまま、形だけで教会の中にザッと入って、本物のクリスチャンが少数派になったら、これからの教会の道行を決めるのは、聖書に基くのではなく結局政治力です。多数派の方が強い。

教会でどんな人が権力を持つのか？ 金持ち・政治力ある人・有名な人・ローマ皇帝に近い人・信仰と全然関係ない人たち。それを放って行くと、看板には「教会」と書いてあってもグロテスク。

そんなのは教会と言えない。

ペルガモンの状態と、この後ヨーロッパで出て来る教会の流れとは、まさに合致します。

この時の**ニコライ派**の考えが、やがてローマ法王に道を開くのです。

606年に出るポニファティウス(1235-1303/在位1294-1303)という人物、彼は全教会の上に君臨する法王。

この後、法王の権限が非常に強くなる次の時代が始まるのですが、次回お話しします。

親がクリスチャンだから私もクリスチャンとか、国の宗教がキリスト教だから私はクリスチャン、キリスト教が国教の国に生まれたから自動的にクリスチャンとか、聖書はそんな事は言っていない。

イエス・キリストを個人的に自分の救い主として信じ、受け入れた人がクリスチャンです。

まとめたいと思います。最初に、なぜ**苦難**があるのかという話をしました。

なぜ良い人に悪い事がおこるのか？ 結論を言うと「分からない。」

先程スミルナ教会を見たら、**黙示録 2:9 わたし**（キリスト）は、**あなたの苦難と貧しさを知っている。**

とは言われているけど、なぜそれが起こるのかの説明を一々なさってません。

その説明をする代わりに「わたしがあなたと共にいるのだ」と言われたんです。

「説明して下さったらいいのに」と思うかもしれませんが、**苦難**の本当の意味は、多分、神以外には理解できないんじゃないですか。

それを人間に説明するのは、コオロギに微分積分を教えるようなものだと思います。

